

「小児検査に対するモダリティメーカーの取り組み」

座長集約 浦添総合病院 診療放射線部 宮里和英

今回のテーマは小児検査であったが、対象が小児に限らず各メーカー被ばく低減、オーバーレンジなどの余分なエリアへの照射をコリメート・カットという技術革新に努めていると感じた。

このような技術に加え、近年は逐次近似再構成法というさらなる被ばく低減の領域に発展してきている。現在、各メーカーともに逐次近似再構成の進化にしのぎをけずっているが、近い将来、完全な逐次近似再構成で日常のCT業務を行うようになると思う。

今後、更なる高解像度検出器、ソフト面では人体の形態をより正確に計算し、緻密な線量コントロールが可能な技術進化が見込まれる。

小児検査に限らず全てのCT検査において、実臨床に有用で価値のある検査になっていくものと思う。

最後に被ばく管理の面からも、現状のCTDIからSSDEというより細かな体格差に対応できる考え方がでてきた。これからは体幹のみならず人体の各部位でこの考えが応用されていくと思われる。